

本との 出会いを楽しむ

第 26 回

学長の本棚

「生き方の指針」

福田 眞作

弘前大学学長。弘前大学大学院医学研究科修了。弘前大学医学研究科教授、附属病院院長、学長特別補佐などを経て、2020年4月から現職。



私の通った小・中学校にも小さな図書館はありましたが、本を借りに行った記憶がほとんどなく、文学少年とは対極にある少年時代を過ごしました。高校では教科書を、大学入学後も専門書を読むことはあっても、いわゆる読書に夢中になることはありませんでした。努めて読書するようになったのは、医師として社会にでてからです。こんな自分が、「本との出会いを楽しむ」へ寄稿して良いものか、悩みながらこの原稿を書いています。自分が大事にしている本を紹介することでお許し願えれば…。

まずは、亀井勝一郎著の『黄金の言葉～思索する心のために～』（1969年初版、1978年第五刷が手元に）を紹介します。1981年、医師となってもなくのことです。自分の未熟さを自覚する出来事があり、ふと立ち寄った書店で「黄金の言葉」という仰々しいタイトルが目にとまりました。手に取ってみると、「心得たと思うは、心得ぬなり。心得ぬと思うは、こころえたるなり（蓮如）」という一節があり、「どこまで努力しても、まだまだ自分は未完成だと自覚していることが、人生を生きる上で重要な心構え（未完成の自覚）」だと、「生き方の指針」を教わりました。歴史的に有名な詩人（ゲーテ）、哲学者（ソクラテス）や僧侶（蓮如）などが残した言葉を解説した本著は、私のバイブル的存在であり、学長に就任してからも、本棚の目立つところに置いています。残念ながら絶版となっ

ており、図書館にもないようです。

えっ？図書館にない本の紹介？と思っている方の声が聞こえてきそうです。そこでもう一冊。こちら古い本ですが、これから現実の社会を経験する学生の皆さんへのお薦めの本です。1937年に出版されて以来、数多くの人に読み継がれてきた作品で、吉野源三郎氏の名作『君たちはどう生きるか』という本です。人間としてどう生きればいいのか、読んでいくうちに自然と考えるように書かれています。勇気、いじめ、貧困、格差、教養等、昔も今も変わらない人生のテーマに真摯に向き合う主人公のコベル君と叔父さん。二人の物語には、「生き方の指針」となる言葉が数多く含まれています。出版後80年経った今も輝き続けるこの歴史的な名作が、原作の良さをそのままに漫画本としても出版されています。単行本でも漫画本でも、一度手にとってほしい一冊として紹介します。

（ふくだ しんさく）

本館所蔵

・「君たちはどう生きるか」
吉野源三郎著
岩波書店

080
3
2944

和図書（第1書庫2F～5F）

・「君たちはどう生きるか」
吉野源三郎著
マガジンハウス

159.7
Y92k

開架図書（本館2F）